

基本計画書

基		本				計		画			
事	項	記 入 欄							備 考		
計 画 の 区 分		研究科の専攻に係る課程の変更									
フ リ ガ ナ 設 置 者		ｶﾞｯｺｳﾎﾘｼﾞﾝ ﾅｺﾞﾔｶｸｲﾝﾀﾞｸﾞｻｸ 学校法人 名古屋学院大学									
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称		ﾅｺﾞﾔｶｸｲﾝﾀﾞｸﾞｻｸﾀﾞｲｶｸｲﾝ 名古屋学院大学大学院									
大 学 本 部 の 位 置		愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号									
大 学 の 目 的		本通信制大学院は、学校教育法および教育基本法および名古屋学院大学大学院学則の定めるところにより、本学大学院の通学の課程に則して、主として通信の方法による正規の課程として開設し、既に社会で活躍する人材を主な対象として、より高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、社会の発展に寄与することを目的とする。									
新 設 研 究 科 等 の 目 的		英語学専攻（通信教育課程）修士課程は、国際語である英語について高度の運用能力の育成と共にその関連領域に関する専門的な知識を総合的に備えた人材の育成を目指し、特に社会人を対象に、通信による指導を基本として高度な専門教育を供することを目的とする。									
新 設 研 究 科 等 の 概 要	新 設 研 究 科 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	基礎となる学部等 外国語学部 英米語学科	
	通信制大学院外国語学研究科英語学専攻（修士課程）	年	人	年次人	人	修士 （英語学）	文学関係	年 月 第 年次	愛知県名古屋市 熱田区大宝三丁目1番17号		
	計	2	20	-	40			令和8年4月 第1年次			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		学生募集停止 外国語学研究科 英語学専攻博士後期課程 通信教育課程（廃止）（△1） ※令和8年4月学生募集停止									
教育課程	新 設 研 究 科 等 の 名 称	開設する授業科目の総数						修了要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計						
	通信制大学院外国語学研究科英語学専攻（修士課程）	15科目		3科目		0科目		18科目		30単位	
研 究 科 等 の 名 称				専任教員					助手	専任教員以外の教員 （助手を除く）	
				教授	准教授	講師	助教	計			
新 設 分	通信制大学院外国語学研究科英語学専攻（修士課程）			6人 (6)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	7人 (7)	0人 (0)	6人 (6)	
	計			6人 (6)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	7人 (7)	0人 (0)	6人 (6)	
既 設 分	経済経営研究科 経済学専攻（修士課程）			15 (15)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	0 (0)	
	経済経営研究科 経営政策専攻（博士前期課程）			16 (16)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	6 (6)	
	経済経営研究科 経営政策専攻（博士後期課程）			14 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	1 (1)	
	外国語学研究科 英語学専攻（修士課程）			7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	7 (7)	
	外国語学研究科 国際文化協力専攻（修士課程）			5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	6 (6)	
	計			42 (42)	11 (11)	0人 (0)	0 (0)	53 (53)	0 (0)	20 (20)	
合 計				43 (43)	11 (11)	0人 (0)	0 (0)	54 (54)	0 (0)	24 (24)	
職 種				専 属			そ の 他		計		
事 務 職 員				人 90 (90)			人 32 (32)		人 122 (122)		
技 術 職 員				1 (1)			1 (1)		2 (2)		
図 書 館 職 員				5 (5)			1 (1)		6 (6)		
そ の 他 の 職 員				0 (0)			0 (0)		0 (0)		
指 導 補 助 者				0 (0)			1 (1)		1 (1)		
計				96 (96)			35 (35)		131 (131)		

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		校舎敷地 借用面積：16,236 ㎡			
	校 舎 敷 地		318,279.62㎡	0㎡	0㎡		318,279.62㎡		借用期間：50年			
	そ の 他		64,584.76㎡	0㎡	0㎡		64,584.76㎡		（平成17（2005） 年7月22日より50 年間）			
	合 計		382,864.38㎡	0㎡	0㎡		382,864.38㎡					
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		借用土地（上記） 上の建物： 23,655.50㎡			
			80,682.52㎡ （ 80,682.52㎡）	0㎡ （ 0㎡）	0㎡ （ 0㎡）		80,682.52㎡ （ 80,682.52㎡）					
講義室等・新設研究科等 の 専 任 教 員 研 究 室			講義室	実験・実習室	演習室		新設研究科等の 専任教員研究室		大学全体			
			115室	40室	15室		8室					
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		機械・器具 点		標本 点			
			電子図書 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕							
	通信制大学院外国語学 研究科英語学専攻（修士課程）		367,530〔86,377〕 (367,530〔86,377〕)	299〔0〕 (299〔0〕)	26,869〔24,875〕 (26,869〔24,875〕)	26,464〔24,801〕 (26,464〔24,801〕)	33,714 (33,714)	64 (64)	学部等単位での 特定不能なた め、大学全体の 数			
	計		367,530〔86,377〕 (367,530〔86,377〕)	299〔0〕 (299〔0〕)	26,869〔24,875〕 (26,869〔24,875〕)	26,464〔24,801〕 (26,464〔24,801〕)	33,714 (33,714)	64 (64)				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	研究科単位での特 定不能なため、学 部との合計 電子ジャーナル、 データベース、そ の他の経費（運用 コスト含む）を含 む			
		教員1人当り研究費等		600千円	600千円	-千円	-千円	-千円				
		共同研究費等		20,000千円	20,000千円	-千円	-千円	-千円				
		図書購入費	12,861千円	11,861千円	10,861千円	-千円	-千円	-千円				
		設備購入費	0千円	0千円	0千円	-千円	-千円	-千円				
	学生1人当り 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	英語学専攻（通信教育課程） 上記を除く各専攻（修士課程） 経済経営研究科経営政策専攻（修士後期課程）			
				740千円	540千円	-千円	-千円	-千円				
				940千円	740千円	-千円	-千円	-千円				
				940千円	740千円	740千円	-千円	-千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			補助金収入、手数料収入、資産運用収入、雑収入等									
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称		名古屋学院大学								令和6年度より学生募集停止 	

既設大学等の状況	リハビリテーション学部						1.05 ≪1.02≫		
	理学療法学科	4	80	—	320	学士 (理学療法学)	1.05 ≪1.02≫	平成22年度	愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号
	大 学 等 の 名 称	名古屋学院大学大学院							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地
	経済経営研究科								
	経済学専攻 (修士課程)	2	2	—	4	修士 (経済学)	0.50	平成9年度	愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号
	経営政策専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (経営学)	0.95	平成9年度	同上
	経営政策専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (経営学)	2.00	平成11年度	同上
	外国語学研究科								
	英語学専攻 (修士課程)	2	2	—	4	修士 (英語学)	0.75	平成9年度	同上
附属施設の概要	国際文化協力専攻 (修士課程)	2	2	—	4	修士 (国際文化協力)	0.25	平成21年度	同上
	通信制大学院外国語学研究科英語学専攻(博士前期課程)	2	20	—	40	修士 (英語学)	0.72	平成13年度	同上
	通信制大学院外国語学研究科英語学専攻(博士後期課程)	3	1	—	3	博士 (英語学)	0.66	平成20年度	同上
		名 称：瀬戸キャンパス体育館 目 的：学生（スポーツ健康学部）の教育研究に資する。 所 在 地：愛知県瀬戸市上品野町1350番87 設置年月：平成25年12月 規 模 等：3階建 4,220.56㎡							

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(通信制大学院外国語学研究科英語学専攻 修士課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
専 門 科 目	英語学研究	1通		2			○			1						印刷教材・面接
	英米文学研究	1通		2			○			1					印刷教材・面接	
	英語教育学研究	1通		2			○				1				印刷教材・面接	
	アカデミック・イングリッシュⅠ	1通			2		○							1	印刷教材	
	アカデミック・イングリッシュⅡ	1通			2		○							1	印刷教材	
	語用論研究	1通			2		○							1	印刷教材	
	英語音声学研究	1通			2		○			1					印刷教材	
	言語学研究	1通			2		○			1					印刷教材	
	英米文学応用研究Ⅰ	1通			2		○							1	印刷教材	
	英米文学応用研究Ⅱ	1通			2		○							1	印刷教材	
	英米文学応用研究Ⅲ	1通			2		○							1	印刷教材	
	異文化間コミュニケーション研究	1通			2		○							1	印刷教材	
	第二言語習得論研究	1通			2		○				1				印刷教材	
	英語教育方法論研究	1通			2		○			1					印刷教材	
	英語教育工学研究	1通			2		○							1	印刷教材	
	英語学論文演習	1～2通			8				○		2					印刷教材・面接
	英米文学論文演習	1～2通			8				○		1					印刷教材・面接
	英語教育学論文演習	1～2通			8				○		2					印刷教材・面接
小計（18科目）		—	—	6	48	0	—			6	1	0	0	0	6	
合計（18科目）		—	—	6	48	0	—			6	1	0	0	0	6	
学位又は称号		修士（英語学）			学位又は学科の分野				文学関係							
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
1. 必修3科目6単位、演習科目を除く選択8科目16 単位以上修得。 2. 演習科目1科目8単位を履修し研究指導を受け、修士論文、または特定の課題に関する研究の成果を提出し審査に合格し、修了試験に合格すること。								1 学年の学期区分				2期				
								1 学期の授業期間				15週				
								1 時限の授業の標準時間				90分				

授業科目の概要				
(通信制大学院外国語学研究科英語学専攻 修士課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	英語学研究		英語の研究におけるコーパスの活用について学ぶ。言語学における「コーパス」とは、実際に使用されたテキストを電子的な形で保存したものを指す。本科目では、コーパス言語学という分野について紹介し、British National Corpus（英国国家コーパス）やCorpus of Contemporary American English（現代アメリカ英語コーパス）といった利用可能なコーパスの使い方を学ぶ。 さらに、英語教育や研究におけるコーパスの活用方法を学び、自らの学習や研究にコーパスを活用する実践も行う。	
	英米文学研究		主要作家と作品に言及しながら、文学史の解説を行う。ヴィクトリア朝小説に関しては、階級とジェンダー、労働、モラル、貧困といったテーマで文化的コンテキストを探求し、研究の切り口を模索する。また、英米の短編小説を精読することで、作風やテーマ、ディスカッション・ポイントについて考察し、理解を深める。	
	英語教育学研究		言語教育の分野ですでに広く普及しつつある研究手法である「ミックス・メソッド・リサーチ（Mixed Methods Research：MMR）」について講義する。また、最新の研究方法論に基づいた修士論文の研究デザインを構築するために必要な専門知識を学生に教授する。	
	アカデミック・イングリッシュⅠ		アカデミック・ライティングの能力を養成することを目的としている。そのために、プロセスエッセイ、原因と結果のエッセイ、比較・対照エッセイ、論証（主張）エッセイなど、さまざまな種類のエッセイを執筆する。また、基本的な文や段落の構成についても取り上げる。	
	アカデミック・イングリッシュⅡ		英語で修士論文やその他の研究論文を書くために必要なスキルを発展・強化させることを目的としており、院生は、適切な言語表現を学ぶことで、研究論文を書く力を向上させる。本科目では、文法、構文、語彙の使い方を学ぶだけでなく、関連するライティング手法についても理解を深める。	
	語用論研究		日常的なやりとりでは、文の構造や語の意味に関する知識だけでなく、話し手の意図、発話が生じる状況、前提、共有知識やそれに基づく推論といった、非言語的要因（コンテキスト）が重要な役割を果たしている。語用論（Pragmatics）では、こうしたコンテキストに依拠して成立する実際の言語使用に注目し、発話の解釈やコミュニケーションにおける言語使用の仕組みについて基礎から学ぶとともに、さまざまな具体例を通じて語用論的な視点および分析法を身につけていく。	
	英語音声学研究		一般的には、音声学は発音の上達を目指す実践的な学問として捉えられがちであるが、本科目では、音声現象の背後にある構造的な規則性を探る、より理論を重視したアプローチを取る。伝統的な音声学の枠組みに基づいて、講義の前半では母音・子音、音連続における音声変化、プロソディ（強勢、リズム、イントネーションなど）について学び、後半ではつづり字と発音の関係、英語アクセントの変種、母語および第二言語の音声と音韻の習得など、より多角的な視野から英語音声の特質を探索する。	
	言語学研究		認知言語学の基本的な知識と分析の発想法を身につけることを目的とする。認知言語学は、ことばを考える際に、人間の身体経験および認知的営みとの密接な関係を重視する言語研究の一分野である。認知言語学はこの考えを中心に据え、従来の言語学と同様、認知文法、認知意味論、認知音韻・形態論、認知語用論などに分類される。本科目ではこれらのうち、特に認知文法、認知意味論の考え方について理解を深め、言語に対する一つの分析方法を学ぶ。	
	英米文学応用研究Ⅰ		英米の文学を取り扱うが、主に、短編小説、詩、歌を通して、さまざまな種類のイギリス文学に触れる。小説には、純文学だけでなく、ファンタジー、ミステリー、超自然的な物語、児童文学などのジャンル小説も含まれる。毎月のライティング課題を通して触れた作品についてレポートするとともに、文学に関する批評的エッセイを執筆する。	
	英米文学応用研究Ⅱ		英米の文学を取り扱うが、主に、アメリカ合衆国において近年その存在感を増すアジアにルーツを持つアメリカ人、アジア系アメリカ人によって書かれた文学、アジア系アメリカ文学研究の基礎を学ぶ。本科目では、人種、ジェンダー、階級等の複合的視点からアメリカ文学テキストを分析し、リサーチペーパーにまとめる力を培う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	英米文学応用研究III		英米の文学を取り扱うが、主に、アメリカ小説を取り扱い、小説とその一解釈ともいえる映画化された作品とを比較、検討することにより、アメリカ小説の歴史的受容・評価について分析的に考える。アメリカ小説とその映像作品について社会・歴史的背景に留意しつつ比較・分析し、問題点をリサーチペーパーにまとめる力を培う。	
	異文化間コミュニケーション研究		「文化がどのように、一般的に言語（言語的および非言語的）と呼ばれる記号を用いて、思考、アイデア、意見、行動（個人的および集団的）に変換されるのか」、そして、「これらの記号は、多文化的背景を持つ社会的な主体によってどのように受け取られ、解釈されるのか」に主眼を置き、異文化コミュニケーションを多角的な視点からアプローチする。	
	第二言語習得論研究		第二言語の習得及び教授法に関する最新の知見を取り扱う。エッセイの提出と音声録音によるプレゼンテーションを組み合わせることで、現在の第二言語習得（SLA）理論が第二言語（L2）教育にどのように応用できるかについて学ぶ。また、本科目では、より理論的な枠組みの中で自身の学習経験や行動の振り返りも行う。	
	英語教育方法論研究		第二言語（または外国語）としての英語を教えるための方法とその理論的背景について学ぶ。英語教授法は 20 世紀初めから数多くの教授法が生み出されてきた。教授法は、いついかなる場合にも使える唯一にして最良の指導法というものは存在せず、教師が状況に応じて適したものを選択し、実施しなくてはならない。その際、教師が現場での経験のみに基づいて選択するのではなく、理論や実証研究に基づいた判断をすることが求められている。本科目では、受講生は教授法を学ぶだけでなく、第二言語習得論の理論と研究について学び、自身が担当する（または将来担当する）カリキュラム、クラスの状況、学生のニーズやレベルに適した教授法をデザインできるようにすることを目指す。	
	英語教育工学研究		教育現場で進められている ICT 教育に対応するために、実際に学校で活用できる内容に重点を置きながら、教育工学の知見を基にして、実際にICT機器などを操作しながら英語教育とICTの融合を探究する。内容は専門的になる部分もあるが、ICT 活用が不慣れな学習者も学習目標に到達できるよう工夫を施す。	
	英語学論文演習		本科目は、英語学、言語学、日本語学の分野での修士論文あるいは特定の課題についての研究成果の作成を前提にしている。英語学、言語学、日本語学は様々な理論的アプローチが可能であり、ことばに関する興味深い現象を深く切り込んでいける分野である。また、特に日本語学は、日本語教育という実践の強力なバックアップとしての役割もある。ただし、研究内容は多様であっても、ことばを通して人間というものを深く理解するという姿勢は共通している。本科目では、言語現象に関して、表層的な分析を避け、ことの本质を探る技術を身につけることを目標とする。受講者は、担当教員と話し合ったうえで自分の研究テーマを決め、それをもとにして担当教員と個別に修士論文あるいは特定の課題についての研究成果の作成を進めることになる。	
	英米文学論文演習		本演習は、18世紀以降のイギリス文学で修士論文を作成することを前提にしている。文学研究は多様な切り口や研究手法が可能であり、扱うテーマも周辺領域まで含めると広範囲に及ぶ。受講者は、担当教員と話し合い、研究したいテーマを決め、修士論文の作成を進める。	
	英語教育学論文演習		英語教育または第二言語習得に関する研究を行い、修士論文を完成させるための指導を行う。英語教育・第二言語習得は様々な理論的枠組み・研究手法・研究対象を含む、学際的な分野である。受講生は、担当教員の指導の下、自身の興味と経験に基づき、研究テーマを決定し、研究を進めていく。1 年目は担当教員のほか、他の受講生とも議論を重ねながら、自身の研究テーマと研究方法についての理解を深め、2 年目は、担当教員の個別指導を受けながら、修士論文を完成させる。	

学校法人名古屋学院大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
名古屋学院大学					名古屋学院大学				
経済学部 経済学科	250	-	1,000	→	経済学部 経済学科	250	-	1,000	
現代社会学部 現代社会学科	150	-	600		現代社会学部 現代社会学科	150	-	600	
商学部 商学科	200	-	800		商学部 商学科	200	-	800	
経営学部 データ経営学科	135	-	540		経営学部 データ経営学科	135	-	540	
法学部 法学科	165	-	660		法学部 法学科	165	-	660	
外国語学部 英米語学科	140	-	560		外国語学部 英米語学科	140	-	560	
国際文化学部 国際文化学科	150	-	600		国際文化学部 国際文化学科	150	-	600	
スポーツ健康学部 スポーツ健康学科	130	-	520		スポーツ健康学部 スポーツ健康学科	130	-	520	
リハビリテーション学部 理学療法学科	80	-	320		リハビリテーション学部 理学療法学科	80	-	320	
計	1,400	-	5,600		計	1,400	-	5,600	
名古屋学院大学大学院					名古屋学院大学大学院				
経済経営研究科 経済学専攻(M)	2	-	4	→	経済経営研究科 経済学専攻(M)	2	-	4	
経済経営研究科 経営政策専攻(M)	10	-	20		経済経営研究科 経営政策専攻(M)	10	-	20	
経済経営研究科 経営政策専攻(D)	2	-	6		経済経営研究科 経営政策専攻(D)	2	-	6	
外国語学研究科 英語学専攻(M)	2	-	4		外国語学研究科 英語学専攻(M)	2	-	4	
外国語学研究科 国際文化協力専攻(M)	2	-	4		外国語学研究科 国際文化協力専攻(M)	2	-	4	
外国語学研究科 英語学専攻(M) [通信教育課程]	20	-	40		外国語学研究科 英語学専攻(M) [通信教育課程]	20	-	40	課程変更(届出)
外国語学研究科 英語学専攻(D) [通信教育課程]	1	-	3		外国語学研究科 英語学専攻(D) [通信教育課程]	0	-	0	令和8年4月 学生募集停止
計	39	-	81		計	38	-	78	